

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2015年7月24日

[テーマ] ミニマリスト—消費して祭り支える—

「ミニマリスト」というキーワードが、テレビ放映をきっかけに注目されていることを、インターネットで知った。所有物を必要最小限に絞り込むことで、時間や心に余裕ある生活を送る。自分の価値基準に合わないものにはお金を使わないが、逆に価値基準に合うものにはたくさんのお金を使う。特に「大切な時間」にはお金を使うことを惜しまない人々のことをいうらしい。

確かに、若者は以前ほど車に関心を持たなくなったし、欲しいものは既に持っているという人がいる。そのような人でも、ハレの日（非日常）を晴れやかに過ごすため、ちょっとぜいたくをしてみようとする。純粋なミニマリストとまではいかないが、多くの消費者の行動は「モノ」から「コト」に移ってきている。そんなことをつらつら考えながら、金曜日の夕方、家族と前橋七夕祭りに出かけた。

いつも通っている中心商店街は、各店舗が出品した伝統的な竹飾りと、子どもたちや年配の方々で作った数多くの作品などで彩られていた。いずれの作品も非常に手の込んだものであり、一つ一つ目を凝らして観賞した。こうした催し物が半世紀以上にわたり開催されてきたことに感激もした。

通りは、どこから集まってきたのか、多くの人たちであふれていた。途中から支店の職員たちとも合流し、長く続く屋台を一巡してみた。各人が買ったものは、空揚げ、フレンチフライ、カステラ、アユの塩焼き、ラムネ、それから生ビール。飲食物以外にもいろいろ。朔太郎橋付近の七夕ライトアップをみるため、土曜日の夜にも出かけた。さらに人の数は増している。私は再び生ビール。

ビールなんてスーパーで買って家で飲んだ方が安いなんて思っているはいけない。街に出てしっかりとお金を使うことは、この祭りがいつまでも続くためにとっても大切なこと。この日は私もミニマリストの一員となった。

次は、花火大会。会場で飲むビールの味は格別であるに違いない！

### 消費価値観の変化

	とにかく安く 経済的なものを買う	多少値段が高くても品 質の良いものを買う	自分のライフスタイルに こだわって商品を選ぶ
2000年	50.2%	40.0%	22.9%
2012年	41.2%	46.4%	36.0%

(出所) 野村総合研究所「生活者1万人アンケート調査」

〔 日本銀行前橋支店長  
    神山 一成 〕